

災害に備える

只見町防災訓練



平成23年7月29日の新潟・福島豪雨から早くも2年が経とうとしています。

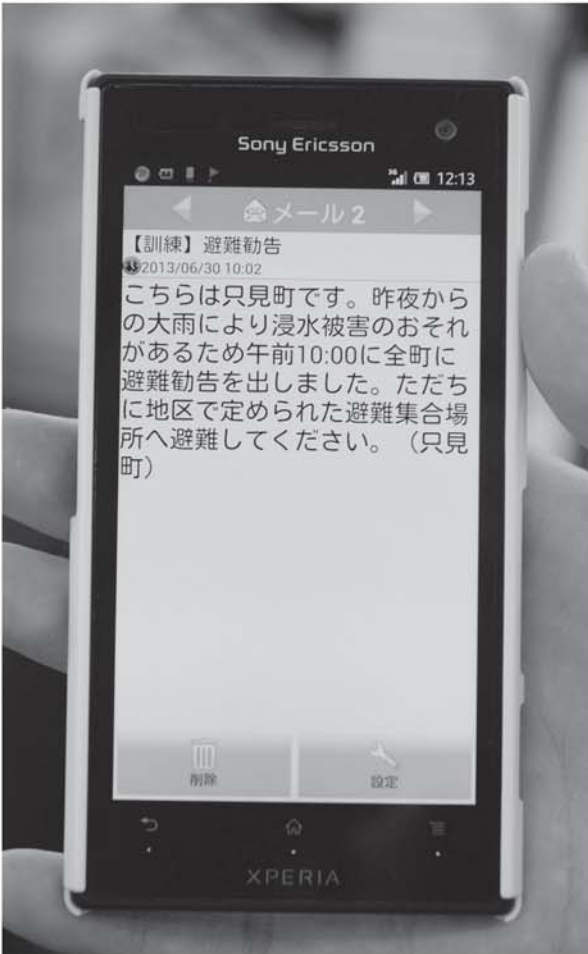
道路や農地などの復旧工事も進みあの
大災害から只見町は着実に復興へと向か
っています。

あの豪雨は自然災害の恐ろしさを私た
ちに身を持って体験させたと思いますが、
あの体験から私たちは何を学んだのでし
ょうか？

私たちは自然災害をくい止めることは
出来ませんが、被害を出来るだけ小さく
するため対策を行なう事は出来るのでは
ないでしょうか？

災害はいつ起こるか分かりません。

日頃から防災意識を高め、災害に対す
る準備を整えておく事が重要です。



今回の防災訓練は避難準備情報や避難勧告の周知方法として、広報無線を利用するほか緊急速報メールも利用しました。

写真⑤ 緊急速報メール発信作業

写真⑥ 実際に届いたメール内容



防災訓練はなぜ必要なのか？

災害が起こった時は、いち早く適切な行動を行なう事が必要とされていますが、災害に対する知識だけではいざという時に行動に移す事が出来ません。

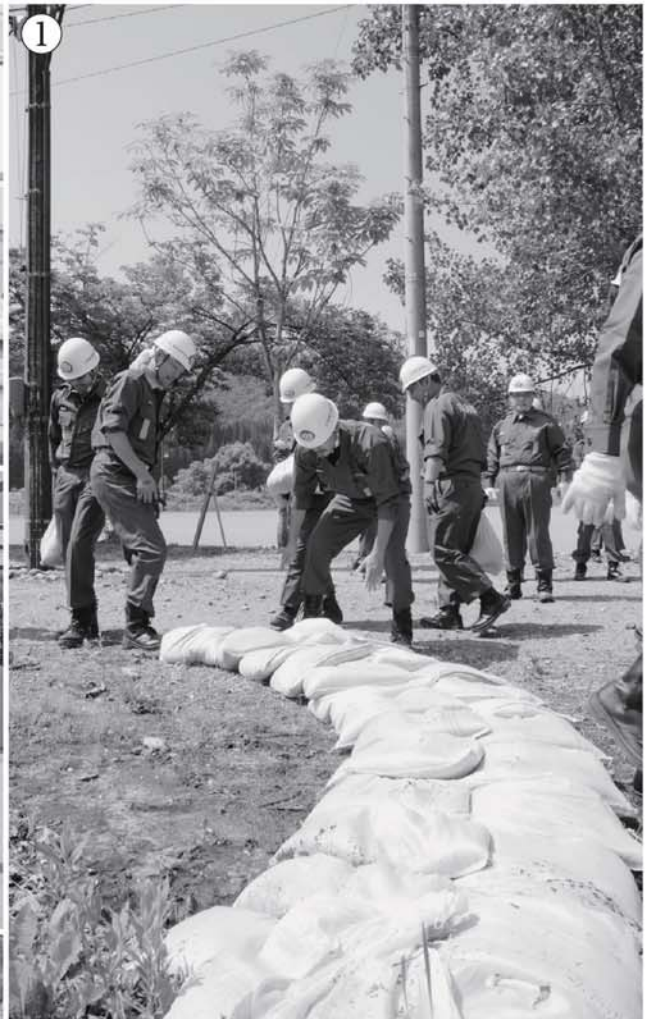
訓練として実際に行動することで自分の地域のこと、住んでいる人達の事を知り災害時に自分は何をするべきなのか、「いざという時どうするのか」を知る事が出来ます。

6月30日に行われた防災訓練は、平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨を踏まえて町、消防団、住民、関係機関それぞれが災害時に迅速な対応をする事が出来るようになる事を目的として実施され、約千四百名の方が訓練に参加されました。

訓練では、豪雨による河川等の増水により住居等への被害が発生する危険性がある事を想定し、水防本部における初動訓練、ダム放流時における通知・通報訓練、消防団による土のう積みなどの水防訓練、各集落と町との伝達訓練や避難訓練、三地区婦人会や赤十字奉仕団による炊き出し訓練が行われました。

また、警察署や消防署も防災訓練に参加された事で、より実践に近い防災訓練となりました。

- ①消防団による土のう積み訓練
- ②災害対策本部の様子
- ③婦人会による炊き出し訓練
- ④只見小学校へ避難する住民
- ⑤消防団による河川巡視訓練





⑥水防本部会議の様子

⑦安否確認等実施の様子

⑧只見地区センターで炊き出しの配布

⑨避難所への炊き出し運搬

⑩赤十字による炊き出し訓練

⑪けが人搬送訓練

只見町では今回初めて全町民を対象にした防災訓練を実施しました。

実際に訓練を行なった事で反省点や問題点など色々な事が分かったと思います。これら問題点は実際に動かなければ分からなかった事ばかりだと思います。

町や、各集落においても、「こうすれば良かった」「こういう時はどうしたら良かったのか？」など色々な意見が出たと思います。

また今回は日中の訓練でしたが、夜間や冬期間など様々な条件の中での対応も検討しなければなりません。災害の規模が大きくなれば大きくなるほど「自助（自らの安全は、自らが守る）・共助（助け合い自分達の町を守る）」が重要になるといわれています。

今回の訓練を終え家庭や地域での防災対策も考えてみて下さい。